

急性胆嚢循環不全に伴う急性胆嚢炎の臨床的検討

なが み はる ひこ
長 見 晴 彦

キーワード：無石性壊死性胆嚢炎，胆嚢動脈虚血，胆嚢壊死

要 旨

急性壊死性胆嚢炎は有石性胆嚢炎が多いが，動脈硬化症・糖尿病などの全身性疾患に伴う胆嚢動脈の閉塞，狭窄や血管炎により惹起される症例もある。今回，胆嚢動脈虚血，阻血により惹起された壊疽性胆嚢炎19例を対象とし臨床的に検討した。年齢は52~84才，男女比13：6，胆石胆嚢炎に比べ70才以上の高齢男性例が多く，基礎疾患を有する症例は高血圧症4例，糖尿病4例，脳血管障害3例，虚血性心疾患1例，多発性結節性動脈炎症例2例で胆嚢動脈血管閉塞によるものと推測された。その他に胃癌術後1例，肝門部胆管癌1例，胆嚢管癌合併例1例，リザーバー留置後胆嚢動脈閉塞症例1例，急性胆嚢捻転症1例であった。手術施行時期は発症48時間以内の緊急手術例は6例であった。胆嚢動脈虚血，阻血による無石性壊死性胆嚢炎は常に胆嚢壊死，穿孔の危険性から早期治療が必要と考える。

はじめに

急性壊死性胆嚢炎は基礎疾患として有石性胆嚢炎症例が多いが，動脈硬化症・糖尿病などの全身性疾患に伴う胆嚢動脈閉塞，狭窄あるいは膠原病，アレルギー性血管炎により惹起され胆嚢壁循環不全により壊死をきたす症例もある。今回，著者がこれまでに経験した急性壊死性胆嚢炎症例について背景因子・基礎疾患について検討したので若干の文献的考察を含めて報告する。

対 象

著者が34年間に経験した胆嚢切除術症例のうち急性有石性壊死性胆嚢炎6症例を除き，他の原因により胆嚢動脈虚血，阻血が惹起され切除標本にて胆嚢壁壊死を認めた壊疽性胆嚢炎19例を対象とした（表1）。

結 果

対象群は年齢52~84才，男女比13：6，胆石胆嚢炎に比べ70才以上の高齢者の占める割合が高く，男性に多かった（表1）。基礎疾患を検討すると合併疾患は高血圧4例，糖尿病4例，脳血管障害

Haruhiko NAGAMI

長見クリニック

連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1

長見クリニック